

令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

喜多方市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ③ 教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立に役立てる。

(2) 調査実施日

令和5年4月18日（火）

(3) 調査内容

※ 令和元年度調査より、従来のA問題（知識）とB問題（活用）を一体的に問う形で実施となっている。

※ 学力調査の実際の問題については、国立教育政策研究所のウェブサイトをご覧ください。<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

① 教科に関する調査：（ ）内は問題数

ア 小学校：国語（全14問） 算数（全16問）

イ 中学校：国語（全15問） 数学（全15問） 英語（全17問）

② 質問紙調査

ア 児童生徒質問紙：児童生徒に対する調査

（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

イ 学校質問紙：学校に対する調査

（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備等に関する調査）

(4) 調査対象

① 小学校：17校（6年生：325名）

② 中学校：7校（3年生：326名）

2 調査結果の公表について

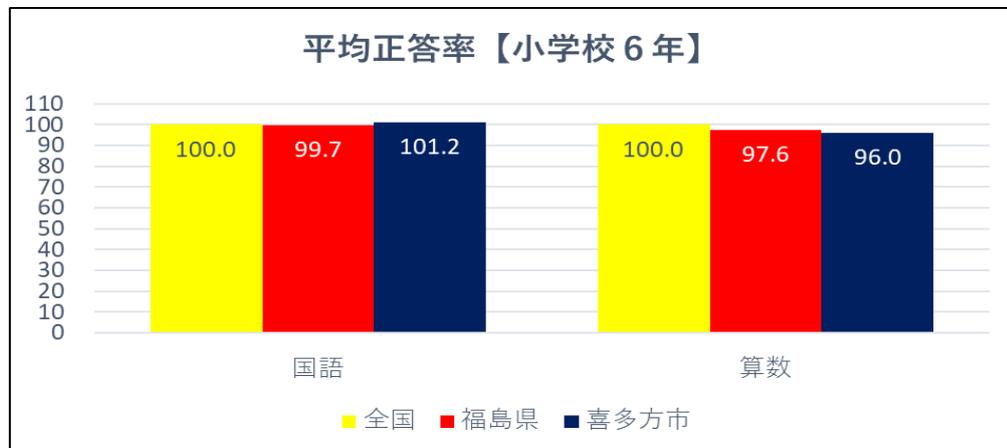
(1) 本市全体の教科別平均正答率及び市内各小・中学校の教科別平均正答率を公表する。平均正答率は、各教科の問題数に対する正答数の割合を示した値であり、全国の平均正答率（100に換算）に対して、本市全体並びに市内各小・中学校がどの程度達成できているかを数値で示す。

(2) 教科別の結果（概要）と課題及び改善策

(3) 質問紙調査の結果と改善策（本市の特徴を表す項目を抜粋）

3 調査結果

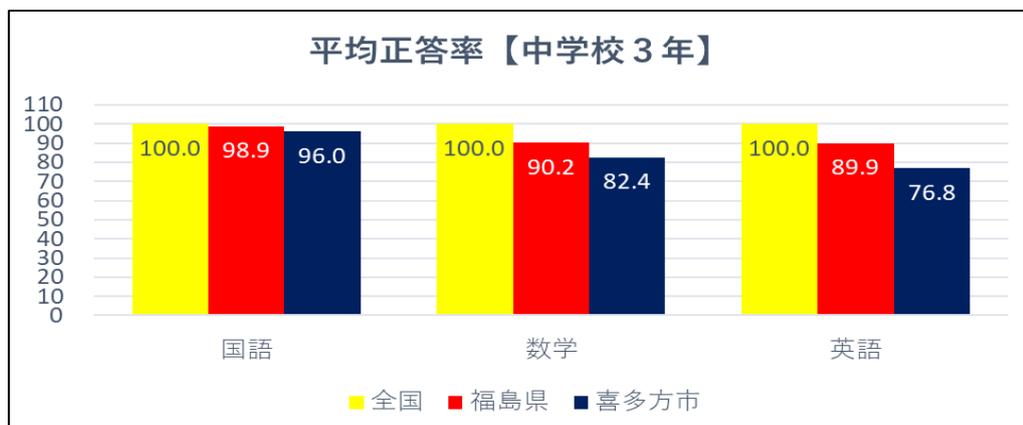
(1) 小学校 6 年



小学校 6年	教科	国語	算数
	全国	100	100
	福島県	99.7	97.6
	喜多方市	101.2	96.0

※ 全国平均を 100 に換算して算出

(2) 中学校 3 年



中学校 3年	教科	国語	数学	英語
	全国	100	100	100
	福島県	98.9	90.2	89.9
	喜多方市	96.0	82.4	76.8

※ 全国平均を 100 に換算して算出

(3) 各教科における本市の特徴

① 小学校6年 (○ 全国を上回っている主な内容 ▲ 課題となる主な内容)

国語	<ul style="list-style-type: none">○ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。○ 学年別配当漢字表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。○ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。○ 目的や意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめること。▲ 原因と結果など、情報と情報との関係について理解すること。▲ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けること。
算数	<ul style="list-style-type: none">○ 台形の意味や性質について理解していること。○ 二次元の表から条件に合う数を読み取ることができること。○ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。▲ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること。▲ 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断すること。▲ 百分率で表された割合について、理解すること。▲ 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ること。

② 中学校3年 (○ 全国を上回っている主な内容 ▲ 課題となる主な内容)

<p>国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見と根拠など情報と情報の関係について理解すること。 ○ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと。 ○ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと。 ▲ 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問すること。 ▲ 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えること。 ▲ 具体と抽象など、情報と情報との関係について理解すること。 ▲ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。
<p>数学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。 ▲ 自然数の意味を理解すること。 ▲ 空間における平面が、同一直線上にない3点で決定されることを理解すること。 ▲ 四分位範囲の意味を理解すること。 ▲ ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。
<p>英語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 情報を正確に聞き取ったり、読み取ったりすること。 ▲ 日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ること。 ▲ 文末表現 (be going to) の肯定文を正しく書くこと。 ▲ 疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くこと。

(4) 質問紙調査の結果

① 児童質問紙

ア 肯定的回答の割合が県と全国を上回り、否定的回答の割合が県と全国を下回るなど、本市としてよい傾向が見られた項目

肯定的回答 1 当てはまる
 肯定的回答 2 どちらかといえば、当てはまる
 否定的回答 3 どちらかといえば、当てはまらない
 否定的回答 4 当てはまらない

番号	質問事項（一部要約）	比較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(41)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	喜多方市	39.8	44.6	12.6	3.0
		福島県	34.7	46.7	15.0	3.6
		全国	30.6	45.1	19.1	5.1
(49)	国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか	喜多方市	37.7	40.4	17.7	4.2
		福島県	32.5	44.2	18.6	4.6
		全国	28.9	42.2	22.1	6.7

上記以外にも、「(7) 将来の夢や目標を持っていますか」「(9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「(39)総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」「(40)あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の項目においてよい傾向が見られた。

イ 肯定的回答の割合が県と全国を下回り、否定的回答の割合が県と全国を上回るなど、本市として課題が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(51)	算数の勉強は好きですか	喜多方市	34.1	28.4	24.3	13.2
		福島県	35.4	28.1	21.8	14.7
		全国	34.8	26.6	21.2	17.4
(58)	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか	喜多方市	17.1	17.1	16.8	49.1
		福島県	20.3	16.5	20.6	42.5
		全国	28.3	18.2	19.5	33.9

上記以外にも、「(1)朝食を毎日食べていますか」「(20)学校の授業以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」「(23)新聞を読んでいますか」「(59)家庭学習の課題（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか」の項目において課題が見られた。

② 生徒質問紙

ア 肯定的回答の割合が県と全国を上回り、否定的回答の割合が県と全国を下回るなど、本市としてよい傾向が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(7)	将来の夢や目標を持っていますか	喜多方市	43.6	32.3	18.2	5.6
		福島県	41.4	27.7	18.6	11.3
		全国	39.4	26.9	19.8	13.2
(32)	日本やあなたが住んでいる地域のことに いて、外国の人にもっと知ってもらいたい と思いますか	喜多方市	25.1	45.5	19.7	9.1
		福島県	27.7	37.9	21.0	12.9
		全国	26.2	37.0	22.7	13.8
(56)	数学の勉強は大切だと思いますか	喜多方市	48.9	39.2	9.1	2.8
		福島県	49.3	37.1	9.8	3.7
		全国	49.8	35.2	10.5	4.2

上記以外にも、「(2)毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「(6)先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで押してくれていると思いますか」「(11)人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「(29)今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目においてよい傾向が見られた。

イ 肯定的回答の割合が県と全国を下回り、否定的回答の割合が県と全国を上回るなど、本市として課題が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(68)	1、2年生のときに受けた授業では、 原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	喜多方市	18.2	33.5	32.0	13.2
		福島県	22.3	37.3	26.5	11.0
		全国	26.2	37.6	23.9	10.0

上記以外にも、「(17)学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾、家庭教師、インターネットの時間を含む）」「(33)1、2年生の時に受けた授業で、PC、タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」「(36)1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の項目において課題が見られた。

③ 学校質問紙【小学校】（回答者：小学校教員）

ア 肯定的回答の割合が県と全国を上回り、否定的回答の割合が県と全国を下回るなど、本市としてよい傾向が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(8)	調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか	喜多方市	23.5	76.5	0.0	0.0
		福島県	21.1	74.0	4.9	0.0
		全国	25.8	65.3	8.5	0.3
(26)	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	喜多方市	11.8	82.4	5.9	0.0
		福島県	18.8	74.2	7.0	0.0
		全国	21.4	67.5	10.8	0.3
(30)	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	喜多方市	35.3	64.7	0.0	0.0
		福島県	32.6	61.5	6.0	0.0
		全国	33.2	58.2	8.4	0.2
(75)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか	喜多方市	29.4	70.6	0.0	0.0
		福島県	37.0	56.3	6.5	0.3
		全国	39.6	51.2	8.7	0.4

イ 肯定的回答の割合が県と全国を下回り、否定的回答の割合が県と全国を上回るなど、本市として課題が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(23)	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	喜多方市	29.4	47.1	23.5	0.0
		福島県	31.0	58.1	10.9	0.0
		全国	33.3	55.5	10.9	0.2
(67)	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	喜多方市	11.8	23.5	52.9	11.8
		福島県	15.4	41.4	35.2	8.1
		全国	18.5	42.1	29.4	9.9
(69)	令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	喜多方市	0.0	29.4	58.8	11.8
		福島県	13.8	45.3	31.8	9.1
		全国	15.0	38.6	31.2	15.2

上記以外にも、「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習を取り入れましたか」「調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」の項目では、肯定的割合が全国や県に比べて低くなるなど、指導上の課題であると認識している教員が多い結果となった。

④ 学校質問紙【中学校】（回答者：中学校教員）

ア 肯定的回答の割合が県と全国を上回り、否定的回答の割合が県と全国を下回るなど、本市としてよい傾向が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(10)	調査対象学年の生徒は、礼儀正しいを思いますか	喜多方市	57.1	42.9	0.0	0.0
		福島県	46.3	49.5	4.2	0.0
		全 国	43.5	50.8	5.5	0.2
(13)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	喜多方市	71.4	28.6	0.0	0.0
		福島県	52.8	45.8	1.4	0.0
		全 国	54.8	43.5	1.7	0.1
(33)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	喜多方市	28.6	71.4	0.0	0.0
		福島県	26.2	58.9	15.0	0.0
		全 国	25.3	61.7	12.8	0.2
(76)	前年度までに、近隣等の小学校と、研究授業を行うなど、合同で研修を行いましたか	喜多方市	42.9	42.9	14.3	0.0
		福島県	36.0	36.9	17.3	9.8
		全 国	27.6	39.7	20.5	12.1

イ 肯定的回答の割合が県と全国を下回り、否定的回答の割合が県と全国を上回るなど、本市として課題が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(26)	調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	喜多方市	0.0	85.7	14.3	0.0
		福島県	13.6	72.4	14.0	0.0
		全 国	19.2	68.8	11.8	0.2
(38)	調査対象の学年に対して、学級生活をよりよくするため、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	喜多方市	28.6	57.1	14.3	0.0
		福島県	32.2	61.7	6.1	0.0
		全 国	35.5	58.4	5.9	0.1

上記以外にも、「努力すべきことを学級の話合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っているか」や「生徒の評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしているか」の項目では、肯定的割合が全国や県に比べて低くなるなど、課題が見られた。

4 教育委員会としての取組

- (1) 【継続】指導訪問や授業改善訪問の機会を生かした直接的な指導助言
- (2) 【継続】授業におけるタブレット等、ICT機器の積極的な活用による「個別最適な学び」の実現
- (3) 【継続】各小・中学校における「読解力育成確認テスト」（本市独自のリーディングスキルテスト）の積極的な運用
 - ① 「読解力育成確認テスト」による実態把握を推進する。
 - ② リーディングスキルの向上を意識した学習活動（教師の働きかけ）を推進する。
- (4) 【継続】市学校教育指導委員会の効果的な運用
 - ① 市内すべての中学校から数学科担当者1名を必ず選出する。
 - ② 「学びの共同体」をテーマとした授業改善を推進する。
 - ア 学習が苦手な児童生徒に「新しい気づきや発見を！」
 - ヴィゴツキーが提唱した「発達の最近接領域」を意識した授業展開
 - イ 「一人も独りにしない」授業の創造
 - 東京大学名誉教授：佐藤学氏が提唱する「協同的な学び」の実践者としての自覚
- (5) 【継続】授業改善訪問サポート（算数科・数学科限定）
 - ① 授業者と事前に意見交換をする。（授業改善訪問では市教委の担当指導主事が事前研究会前に学校を訪問し、授業者と授業づくりについて意見交換する）
 - ② 指導主事要請手続きの簡略化を図る。（学校や授業者からの要請があれば、何度でも訪問する）
- (6) 【継続】総合学力調査（ベネッセ）の活用
 - ① 第2回学力向上研修会において、ベネッセ担当者からの分析結果の報告を受ける。（市全体）
 - ② 市全体の分析結果報告を受けた自校の結果分析を基に授業改善を図る。
- (7) 【継続】各小・中学校におけるコミュニティスクール（CS）の活性化
 - ① 児童生徒の学力向上に向けた部会を創設する。
 - ② 調査結果と数値による目標の共有と連携を図る。
- (8) 【令和5年度より新規】学校支援訪問 ※すべての学校が対象
 - ① 全国学力・学習状況調査の結果を基にした管理職等との協議をする。
 - ② 成果が上がっている取組を整理し、すべての学校に紹介することをとおして、フィードバックを図る。